

【県連理事会アピール】

「ブルーインパルスの展示飛行」に対する県連理事会の見解
危険なブルーインパルスの展示飛行の中止と
コロナ対策をはじめとした医療・福祉予算の拡充を求めます

2021年10月12日
山形県民主医療機関連合会理事会

新型コロナウイルスワクチンの普及で新規感染者数も減少し、全国に発出されていた緊急事態宣言及びまん延防止等重点措置は9月30日をもって解除、山形県内でも10月9日には感染レベルが特別警戒レベル4からレベル3に引き下げられました。しかしながら、変異株によるリバウンド（第6波）を警戒して県は引き続きの予防策徹底を呼びかけ、また、私たちの事業所でも日々感染対策を徹底し、地域の人びとのいのちと暮らしを守るために医療・介護活動を継続しています。また、感染者数は減少しているものの、医療機関をはじめとした他の多くの業種でも厳しい経営状況は継続しており回復の兆しが見えていません。

このような中、10月23日に庄内空港30周年記念、医療従事者への敬意と感謝を示す名目でブルーインパルス展示飛行が庄内地域上空で予定されています。この飛行は「人に見せるため」の展示飛行であり、それに伴い特に庄内空港や周辺の商業施設には多くの人が集まることが想定されます。ワクチン接種が進んでいるからといってそれが感染を必ず防止できるわけではなく、さらに未だ感染力の強い変異株（デルタ株）の脅威がなくなったわけでもありません。この度の展示飛行は、感染予防を呼びかける県の方針や、心身ともに限界を超えて感染対策の徹底とワクチン接種をすすめる医療従事者の想いに逆行するものであり、決して医療従事者への感謝が伝わるものではありません。

そもそもブルーインパルスは過去の展示飛行や訓練でたびたび墜落や死亡事故を起こしています。展示飛行中の事故で地上の民間人にも負傷者が出ています。危険な展示飛行は行うべきではありません。

また、ブルーインパルスの飛行には多額の費用が発生します。ブルーインパルスは航空自衛隊の広報活動のための機体であり1機約23億円、広報活動ではほとんどの場合6機が一組となって飛行しますので、その機体総額は約138億円です。航空自衛隊の存在を広く知ってもらうという名目のためだけにこれだけの費用がかかっています。加えてパイロットの養成や日々の整備費用や飛行にあたっての燃料代（東京五輪時の東京上空飛行で約360万円）でも多額の費用が発生しています。医療従事者への感謝と言うのなら、コロナ対策や医療・福祉予算の拡充にあてていただきたいと強く願います。

庄内空港が竣工したことによる庄内地域への恩恵は、東京からのフライトドクターの確保面でも多大な恩恵を受けていることは実感しており、30周年を祝う気持ちは私たちにもあります。コロナ対応で奮闘する医療・介護従事者へのエールも非常にありがたく嬉しいものです。しかし、今、本当に求められているのは展示飛行ではなく、コロナの影響で経営が厳しい業種や経済困窮者への手厚い支援です。展示飛行で使用する費用を本来必要とされる人びとのために使用することこそ、本当の意味での地域の人びとへのエールになるのではないのでしょうか。

私たち山形県民医連理事会は、危険なブルーインパルスの展示飛行の中止とコロナ対策をはじめとした医療・福祉予算の拡充を求めます。

以上